

## 関連事業の概況

NHKの関連団体は、それぞれの事業分野でNHKの業務を補完・支援し、NHKグループの一員として、NHKとともに豊かで多様な放送文化の創造に努めることを基本的な役割としている。

NHKの業務の効率的推進により経費の節減を図ると同時に、放送のデジタル化に伴うメディア環境の変革や、放送と通信の連携、社会・経済状況の変化等が進んでいく中で、NHKのソフト資産・ノウハウの活用や社会還元を進め、副次収入等の財政的寄与により視聴者の負担を抑制していくことなどを主な目的として運営されている。

今後も、関連団体に対するガバナンスの強化を図るとともに、効率性と公共放送の質の確保をいっそう進めて、NHKグループ全体の総合力を高めていく。また、NHKと関連団体の取り引きについても、さらに透明性を高めていく。

### 1. 関連事業の体制

2013年7月に、アニメ番組の企画・制作等を行っている「総合ビジョン」と「NHKエンタープライズ」が統合した。存続会社は「NHKエンタープライズ」で、商号の変更はない。これにより、13年度末現在、NHKの関連団体は、子会社13社、関連会社4社、関連公益法人等9団体の計26団体、総従業員数は6,390人である。(⇒p.734)

### 2. 関連団体の決算概要

13年度の関連団体決算は、健保・共済会を除く23団体の単純合計額で、売上高（事業収入）3,065億円（対前年度159億円増）、当期純利益（正味財産増減額）91億円（対前年度2億円増）であり、増収増益となった。

関連団体によるNHK副次収入への寄与額は、対前年度3億円増の62億円になった。

今期決算に伴う配当は、対前年度1億円増の31億円で、うちNHKの受取額は、対前年度2億円増の20億円となった。

### 3. 団体に対する出資など

13年度は、新たな関連団体への出資や増資はなかった。関連団体以外への出資・出捐については、一般放送事業者の教育・教養番組の一層の充実を図ること等を目的とする公益財団法人「放送番組センター」に7,276万円の出捐を行った。

## I. 関連団体への番組制作委託

NHKでは、コンパクトな番組制作体制の下で質の高い放送番組を安定的に確保するため、13年度も12年度同様、関連団体への番組制作委託を進めてきた。また、番組の一層の多様化を図るため、関連団体を通じて、番組制作会社にも企画提案を求め、一部の番組制作を委託した。

関連団体への委託では、NHKエンタープライズに、『NHKスペシャル』などの大型企画番組、ドラマ番組（『ドラマ10』『土曜ドラマ』など）、芸能番組（『BS日本のうた』など）、アニメ番組（『おじゃる丸』など）の制作、購入番組の日本語版制作などの委託を行った。

NHKエデュケーショナルには、『きょうの料理』『おかあさんといっしょ』『日曜美術館』『ニュースで英会話』など、生涯学習や教育・教養に関する番組の制作を委託した。

NHKグローバルメディアサービスには、大相撲、プロ野球をはじめとするスポーツ番組や、『ワールドWave』『ワールドWave トゥナイト』『東京マーケット情報』『エルムンド』などのニュース・情報番組を委託した。

NHKサービスセンターには、『もうすぐ9時プレマップ』『NHKプレマップ』などの広報番組や各種番組スポットなどの制作を委託した。

NHKプラネットには、『のんびりゆったり 路線バスの旅』『きらり！えん旅』などの番組を委託した。

日本国際放送には、『J-MELO』『TOKYO FASHION EXPRESS』などの国際放送番組を委託した。

## II. 放送番組等の二次展開

### 1. 映像・音声商品等の発行

NHKエンタープライズからは、「NHKビデオ・DVD」の名称で、『連続テレビ小説』『あまちゃん』『ごちそうさん』、『大河ドラマ』『八重の桜』、『クリスマスドラマ 天使とジャンプ』、韓国ドラマ『馬医』、『NHKスペシャル』『病の起源』などの映像商品を発行した。

また、NHKサービスセンターからは、「NHK CD」の名称で『基礎英語1～3』などの月刊語学教材や『名曲アルバム』などの音声商品、ムツ

ク本『あまちゃんメモリアルブック』などを発行した。

## 2. 放送番組および素材の提供

### (1) 企業・団体への番組の提供

一般企業・団体の研修用や展示、イベント用にNHKエンタープライズ等を通じて放送番組を提供した。

### (2) BS・CS放送事業者への番組提供

NHKエンタープライズを通じて、CS放送事業者等に『スペシャルドラマ～坂の上の雲』『大河ドラマ』『江』『連続テレビ小説』『梅ちゃん先生』『NHKスペシャル』『世界初撮影！深海の超巨大イカ』『レッツゴーヤング』『BS歴史館』などを提供した。また、NHKグローバルメディアサービスを通じて、『日本オープンゴルフ選手権』を提供した。

### (3) CATVへの番組提供

NHKエンタープライズを通じて、『連続テレビ小説』『ちりとてちん』『ころ』『大河ドラマ』『篤姫』『利家とまつ』『きょうの料理』『アニメ三銃士』などを提供した。

### (4) 機内上映用の提供

航空機の旅客サービス用として、NHKグローバルメディアサービスを通じて日本航空、全日本空輸などへ『NHKニュース』を、NHKエンタープライズを通じて日本航空へ『プロフェッショナル 仕事の流儀』『歴史秘話ヒストリア』を、全日本空輸へ『BEGIN Japanology』などを提供した。

### (5) 番組素材の提供

民間放送局および一般企業・団体への番組素材の提供をNHKエンタープライズを通じて、また放送大学学園への番組素材の提供をNHKエデュケーショナルを通じて行った。

### (6) キャラクターの使用許諾

NHKエンタープライズが、『いないいないばあっ！』などの幼児番組や「どーもくん」のキャラクターの使用許諾を行った。

## 3. デジタル事業

NHKエンタープライズを通じて、ブロードバンド事業者に『サラリーマンNEO』や『連続テレビ小説』『てっぺん』『タイムスクープハンター』などを提供した。また、NHKグローバルメディアサービスが行う携帯電話等のモバイル端末向けのサービスに対し、NHKのニュースや番組の楽曲、映像クリップなどの提供を行った。

## 4. 番組・素材の海外提供

関連団体を通じて、番組とニュース素材を海外の放送機関などへ提供した。NHKエンタープライズからアニメやドラマ、自然番組、教育番組を提供、日本国際放送からは「NHKワールドプレミアム」を配信した。

開発途上国の放送機関などには、NHKインターナショナルと連携し、「国際版番組ライブラリー」の保存番組を公的資金によって提供した。

番組・ニュース素材については、NHKインターナショナルを通じてデジタルクリップを制作し、オンラインによる海外の放送機関や一般団体への提供を行った。

## 5. 放送番組関連の出版

『里山資本主義』『アジアで花咲け！なでしこたち2』『爆笑問題と考える いじめという怪物』、『NHKスペシャル』では「老人漂流社会」「メルトダウン 連鎖の真相」「メイド・イン・ジャパン 逆襲のシナリオ」など、番組に関連した出版物が、NHK出版や外部出版社から発行された。

## 関連団体

### I. 子会社

#### 1. NHKエンタープライズ

13年度は「平成24～26年度中期経営計画」の2年目として、経営目標である「貢献」「挑戦」「改革」の3つのテーマを引き継ぐ形でスタートした。

13年度の大きな出来事として、株式会社総合ビジョンとの合併があった。「アニメ番組の制作と展開事業」の再編・統合を目指し、継続的に慎重な検討を重ねてきた結果、13年7月1日付でNHKエンタープライズが存続会社として総合ビジョンを吸収合併し、新たなスタートを切った。これにより、Eテレの『忍たま乱太郎』や、BSでは『キングダム』が当社アニメ事業のコンテンツのラインナップに加わるとともに、キャラクター事業における戦略的な展開や、企画事業での「ミュージカル 忍たま乱太郎」の興行とライブビューイング等の実施など、さまざまな部門でその効果が生み出された。

そのほかにも13年度は、話題となった番組の制作とコンテンツ展開の中で、NEPが総合コンテ

ンツ企業としての数年来の全社的なテーマとしてきた〈社内連携〉が活性化し、相乗効果による成果をあげた。

“深海のダイオウイカ”関連では、7月に自然科学番組の制作による『NHKスペシャル～シリーズ深海の巨大生物』『伝説のイカ 宿命の闘い』『謎の海底サメ王国』が放送され、同時期に東京ミッドタウンで、「深海4Dスクエア」と題したダイオウイカのプロジェクトマッピングを事業開発が実施した。他にもNHKスタジオパークで「深海の巨大生物」展、国立科学博物館では特別展「深海」が開催され、当社制作の展示映像やキャラクター事業が手がけた“ダイオウイカ”のぬいぐるみやキーホルダーなどの関連グッズも話題となった。

また、一大ブームともいえるヒット作となった『連続テレビ小説』『あまちゃん』については、多数の部署にまたがる社内横断的なプロジェクトを立ち上げ、出版物やグッズの著作権ライセンス、ブルーレイとDVDの販売促進のための宣伝施策、機内上映への提供戦略といった多様な分野で議論や意見交換を行った。一方で、他の関連団体の協力を得てウェブサイト“あまちゃんモール”を立ち上げるなどの試みも実施し、それらは、顕著な業績となって結実した。

また制作企画で継続して番組を制作している『証言記録 東日本大震災』は、12年度よりビデオ営業から順次DVDを発行しているが、年末に発売から1年の節目を迎え、売上の一部として、NHK厚生文化事業団を通して、被災地復興支援に約200万円の寄付を実施した。

そのほかの具体的な業務分野別では、番組制作関連では、若い母親をターゲットとした『カリスマママ』や、食がテーマの『アリスのおいしい革命』『植物男子 ベランダー』といった意欲的な新番組が話題となった。特集番組では、『零戦～搭乗員たちが見つめた太平洋戦争』のATP賞グランプリの受賞をはじめ、さまざまな番組が高い評価を受けた。

自然科学の関連では、『ダーウィンが来た!』や『ワイルドライフ』といった継続定時番組のほか、『大沢たかお 神秘的北極圏』や『NHKスペシャル』『病の起源』などを制作した。

エンターテインメント番組では、総合テレビの『連続クイズ ホールドオン!』『伝えてピカッチ』や、BSプレミアムの『七人のコント侍』などを、アニメでは仮想オンラインゲームの世界が舞台の『ログ・ホライズン』や家族の日常を描い

た『団地ともお』を制作し、放送された。

ドラマでは、4Kで撮影された正月時代劇『桜ほうさら』や、同じく時代劇『大岡越前』『あさきゆめみし』などが話題となった。現代劇でも、『ハードナッツ!』や『紙の月』『第二楽章』ほか多数を制作した。

国際事業関連では、韓国ドラマ『馬医』や、『うさぎのモフィ』を購入し、放送以外にも、DVD等で展開した。

映画に関しては、8月に劇場版「タイムスクープハンター」が、9月には「ベニシアさんの四季の庭」が劇場公開された。

映像ソフト販売では、『あまちゃん』の大ヒット以外にも、韓国ドラマの『太陽を抱く月』『馬医』が好調な売り上げを記録した。過去番組の中からも、『おしん 完全版』のブルーレイ化や、『エトロフ遙かなり』等の過去のドラマ番組の商品化にもチャレンジした。また、5月の歌舞伎座新開場に合わせて、「DVD歌舞伎名作撰」の第Ⅲ期として17タイトルを発行し、第Ⅰ期、Ⅱ期と合わせたラインナップは計50タイトルとなった。

直販部門では、映像商品の頒布会として「名曲アルバム 名曲と旅する世界の国々10か月」を、また初のCD音声商品の頒布会として「CD頒布会 NHK落語名人寄席十二か月」の販売を開始した。

イベント事業では、「ロボットコンテスト」の、「高専ロボコン」の決勝が両国で、「大学ロボコン」は代々木で、「ABUロボコン」はベトナムでそれぞれ開催された。ベトナムのABU大会では、金沢工業大学が優勝を飾った。「東京JAZZ」は9月に東京国際フォーラム等の3会場で、異なるコンセプトで開催され、内外のアーティストの名演奏が好評を博した。「ロックの学園」は、神奈川県厚木市の東京工芸大学で開催され、多くの観客が来場、人気アーティストのライブを堪能し、そのようはBSプレミアムで、12月15、21、30日に放送された。

展示事業では、『軍師官兵衛』の大河ドラマ館をはじめ、各所で展示を行ったほか、会津若松市等の主催による「鶴ヶ城 プロジェクトマッピングはるか2014」を実施した。「ワープステーション江戸」の運営では、従来の時代劇セットに加え、明治・昭和のセットゾーンを新設し、『花子とアン』等の収録に使用された。

デジタル事業では、ハイブリッドキャストが本格運用に入り、冬のソチオリンピックでもサービスの実施とともに、動画やデータオンライン上で高画質動画を提供し、オリンピック放送を大き

く盛り上げた。

リスクマネジメント、コンプライアンスの推進については、社内の情報セキュリティを高めるため取り組んできた情報セキュリティのJIS規格であるISMS（情報セキュリティ・マネジメント・システム）の認証取得から区切りの4年目を迎え、厳しい更新審査を受けて認証を更新することにより、情報セキュリティの強化に取り組んだ。

## 2. NHKエデュケーショナル

Eテレを中心に年間およそ1万本のNHK番組を制作するかたわら、番組関連テキストの編集、イベントの企画・制作、独自の映像ソフト制作、デジタルコンテンツ制作、キャラクター事業など、さまざまな分野で事業展開を図っている。

13年度は、Eテレでは新番組として『SWITCH インタビュー 達人達（たち）』『チョイス@病気になったとき』『しごとの基礎英語』『ノーゾーのひらめき工房』を制作したほか、定時番組『日曜美術館』『100分de名著』『きょうの料理』『趣味の園芸』『きょうの健康』『すイエんサー』『東北発☆未来塾』『Rの法則』『スーパープレゼンテーション』『おかあさんといっしょ』『すくすく子育て』『NHK高校講座』『語学講座』など、特集番組として『学校はどう変わるのか～世界の教育事情最前線』『大人のピタゴラスイッチ～デジむず』などを制作した。

総合テレビでは『あさいチ』『サラメシ』『妄想ニホン料理』『マサカメTV』のほか、特集番組として『7年ごとの記録 28歳になりました』『爆笑問題のマンガ創世記～手塚×石ノ森キャラクター大集合！』『今井翼×サムライ支倉 大いなる旅への挑戦』などを制作した。

衛星放送では新番組『おとうさんといっしょ』のほか、『美の壺』『コズミック フロント』、特集番組として『京都迎賓館～極める！京都の技とおもてなし』『阿部寛の“宇宙への挑戦”』などを制作した。

このほか、「東京国際キルトフェスティバル」や「国際バラとガーデニングショウ」「おかあさんといっしょスペシャルステージ」などのイベントの企画・運営、放送大学の授業番組の制作を行った。

## 3. NHKグローバルメディアサービス

NHKの報道とスポーツ部門を支援する関連会社として、放送と通信の融合時代にふさわしい、多様なニュースと魅力ある番組を供給する一方、

携帯電話やデジタルサイネージの分野でニュース提供事業を展開している。

13年度は、NHKからの委託で、BS1を中心とするニュース制作、番組制作、スポーツ中継、番組・ニュースの字幕制作、デジタル放送のデータ制作、映像取材と編集、通訳・翻訳、映像の海外送受信など、多角的な業務を引き続き展開した。

各分野のうち、ニュース系では、『BSニュース』『ワールドWave』『ワールドWave トウナイト』『東京マーケット情報』『NHK手話ニュース』などを制作・放送するとともに、海外向けのラジオ放送『日本語ニュース』の放送に当たった。

番組系では、『ワールドスポーツMLB』『スポーツ酒場“語り亭”』などの新番組を立ち上げ、前者は好調な視聴率を維持した。東京オリンピック関連では、開催が決まったIOC総会の事前番組と中継番組を制作し、次代を担う若い選手たちを描く番組などの開発を進めた。また、『NHKスペシャル』の「中国激動 空前の農民大移住」「日本人船長 宇宙へ～若田光一の挑戦」や『クローズアップ現代』などの大型番組を提案し、制作した。

字幕制作では、新たに総合テレビの『NHKのど自慢』や14時と15時の全国ニュースに字幕を付けたほか、ウィンブルドン大会などのスポーツ中継でも字幕付与を拡大した。ソチ冬季オリンピックでは、全番組の字幕化を実施し、時間数は2年前のロンドン大会の1.2倍に増加した。また、地域放送でも字幕を本格スタートし、4月から大阪局と名古屋局、その後、福岡局、仙台局で、夕方の情報番組と『ニュース845』の字幕を開始した。

デジタル分野では、大阪管内6局と宇都宮局、松江局のデータ放送を制作するとともに、スポーツのデータ放送とウェブの一体制作を行い、コンフェデレーションズ杯、ソチオリンピックでアクセス数を伸ばした。また、外国人や障害者も利用しやすい「やさしい日本語ニュース」や『NHK手話ニュース』のホームページ制作を開始した。

スポーツ部門では、W杯ブラジル大会に向け、アジア最終予選や各大陸予選を制作、前哨戦といわれたコンフェデレーションズ杯全試合をBS1で生放送した。ソチオリンピックでは22人を現地に派遣、国内では外部プロダクションの協力を得て約200人の体制で、総合・BS1で500時間以上の放送を送出した。また、MLBではダルビッシュ投手の先発試合やヤンキースの試合など300試合以上を制作したほか、プロ野球120試合、欧州サッ

カー、NBA、NFL、PGAなど世界のトップレベルのスポーツを放送した。

バイリンガルセンターでは、BSの国際情報番組で海外の放送局のニュース番組を通訳するとともに、『NHKニュース7』や『ニュースウオッチ9』で英語による副音声の放送を担当した。また、国際放送の『NEWSLINE』の制作に加え、新たに英語のニュース原稿の出稿業務を受託した。

国際回線のコーディネートでは、「シリア内戦」「ウクライナ問題」「ソチオリンピック」など、緊迫した世界情勢からスポーツ中継まで多彩な業務に当たり、激増するIP伝送にも対応した。

アーカイブス事業では、30年間のニュース同録をデータベース化し映像と原稿を総合的に活用する「次期データベース」の制作を進めた。

携帯電話向けのサイト「NHKニュース&スポーツ」は、NHKニュースやスポーツ、気象情報を中心に、生活に必要な情報を有料でサービスしている。8月からの特別警報にはメール機能を活用して速報で対応し、災害時には、NHKの災害報道の一翼を担うサイトとして、情報を無料提供している。また、デジタルサイネージへのNHK動画ニュースの提供は、医療機関やショッピングモールなどの大口契約がまとまり、年度末にはJR東日本のトレインチャンネルへの配信を始めた。

#### 4. 日本国際放送

日本から世界に向けた情報発信の強化を目指し、テレビ国際放送の番組制作、ニュース編集、送出、受信環境整備などのNHK受託業務のほか、JIB独自の放送やアジアでのコンテンツ展開など自主事業に取り組んだ。

受託番組は、定時では『J-MELO』『Journeys in Japan』『TOKYO EYE』『TOKYO FASHION EXPRESS』『J-Architect』『Artisan × Designer』、特集では『Sustainable Forests』『Oku no Hosomichi』『ZEAMI』『Story of 3 Fashion Cities~Tokyo, Paris, London』『Rising Artists』『Asian Beauty~Reviving Khmer Ikat Silk』『Playing for the Future~The Myanmar Women's Football Team』『ART TIME-TRAVELLER』などを制作、『Journeys in Japan~Jazzy Kobe』が、ワールドメディアフェスティバル2014で金賞を受賞した。

NHKワールドTVの24時間視聴可能世帯数は13年度末には1億9,142万世帯となった。テレビ国際放送の送出業務では正確な送出に努めた。

独自放送枠では、『RESILIENT JAPAN』、民放局制作の『Barasu』をシリーズで放送したほか、『Evolving Urban Railways』『2013 ITU World Triathlon Yokohama』『Run, Samurai Horsemen! THE SOMA NOMAOI』『Wisdom from Nature The Japan Awards for Biodiversity 2013』『Welcome to Washoku the Japanese cuisine』『Omiya Bonsai』『Japan-made Technology To the Next Stage』など多彩に発信した。

ミャンマーではNHKの『連続テレビ小説』『カーネーション』と『大河ドラマ』『篤姫』を、インドネシアでは『あまちゃん』を、現地語で字幕を付けて放送する事業を開始した。

#### 5. NHKプラネット

NHKプラネットは地域に拠点をもち、地域放送サービスの充実と、ネットワークを生かした地域情報の全国・世界発信、それに地域に貢献するイベントの企画・制作を行っている。13年度の全国発信番組では『あさいち〜ピカピカ☆日本』『のんびりゆったり 路線バスの旅』『釣りびと万歳』『ひるプラ』『学ぼう BOSAI (防災)』『あしたをつかめ〜しごとくらしも』を、国際発信番組では『Train Cruise』を受託し、各拠点で分担して制作した。

東京本社では、上記のほか震災復興支援の番組『きらり！えん旅』を制作した。

近畿総支社では、『歴史秘話ヒストリア』『俳句王国がゆく』『バラエティー生活笑百科』などの全国発信番組の制作、「2013食博覧会・大阪」「全国高校生伝統文化フェスティバル」などのイベント企画、「再発見！大阪の至宝展示」などの展覧会、NHK大阪ホール管理運営などを実施した。

中部支社では、『東海北陸フレッシュ便 さらさらサラダ』『Uta-Tube』『金とく』『Good Job! 会社の星』などの番組制作事業、「東儀秀樹全国ツアー」「あいちトリエンナーレ2013」「テレビ60年記念感謝祭」などのイベント事業、「地域映像アーカイブス事業」などを実施した。

中国支社では、瀬戸内を題材としたミニ番組『瀬戸内アルバム』や国際放送『Island Hopping the Seto Inland Sea』などを制作、「瀬戸内しまのわ2014」オープニングイベントなどの事業、大阪市交通局安全研修施設展示映像などのソフト制作事業を実施した。

九州支社では、『きん☆すた』『はっけんTV』『はっけんラジオ』『ETV特集〜三池を抱きしめる女

たち』『黒田官兵衛とその時代』などの番組制作事業、特別展「中国 王朝の至宝」「国宝 大神社展」「ロボット展」「船のなるほど展」「官兵衛一座がやってくる」などの事業を実施した。

東北支社では、震災を風化させず被災者に寄り添う番組『あの時わたしは』『被災地からの声』などの制作にあたった。また、『東北Z』『TOHOKU メンコイらば』、『希望の音色ふたたび～第5回仙台国際音楽コンクール』関連番組の制作や、東北発の「絵本原画展」の全国巡回展、「慶長遣欧使節400年」関連イベントを実施した。

北海道支社では、『つながる@きたカフェ』『さわやか自然百景』『北スペシャル～激闘！ご当地ピックアップ in北海道』などの番組制作、「北の音楽隊～音と楽器のワンダーランド」「歌謡チャリティーコンサート」などのイベントを実施した。

## 6. NHKプロモーション

放送関連イベントの企画・運営をはじめ、展覧会・博覧会、コンサート、フォーラム・シンポジウム、各種式典、講演会などのイベント事業を中心に、普及啓発用映像ソフト制作などを実施している。

13年度は、展覧会・博覧会では、特別展「深海」、「貴婦人と一角獣展」「ルーヴル美術館展 地中海四千年のものがたり」、特別展「印象派を超えて点描の画家たち」、NHK大河ドラマ特別展「八重の桜」、「国宝 大神社展」「竹内栖鳳展」、特別展「手塚治虫×石ノ森章太郎 マンガのちから」、「ベニシアと仲間たち展」など。

番組関連イベントでは、「NHK音楽祭」「NHKニューイヤーオペラコンサート」「NHK古典芸能鑑賞会」「NHKおかあさんといっしょファミリーコンサート」「NHKバレエの饗宴」「NHKサイエンス・スタジアム」など。

このほか、公共文化施設における子ども向けイベントの開催や、「第14回地域伝統芸能まつり」「日中韩芸術祭」「選定保存技術関連シンポジウム」「ボストン美術館・浮世絵デジタル事業」「第4回ファーマーズ&キッズフェスタ」「ふるさとの食 につぼんの食～全国フェスティバル」などを実施した。

## 7. NHKアート

NHKテレビ番組の美術制作（美術制作進行、大道具等美術用品の製作・運用、装置、装飾、衣裳、メイク、かつらなど）やセットデザイン、グラフィックス・CG等のデザイン制作を行う総合

美術会社。また、特定建設業・一級建築士事務所の資格を持ち、文化施設・イベント等の企画、制作、設計・施工、運営までトータルに業務を行うほか、NHKホールをはじめとする10のホール・会館の舞台・照明・音響等の操作・運営管理を行うなど、テレビ番組美術制作で培ったノウハウを生かした多様な業務を行っている。

13年度は、NHK番組関連イベントの「おかあさんといっしょファミリーコンサート」「ロボットコンテスト」「渋谷DEども」「防災パーク2013」「NHK文化祭たいけん広場」「ワンワンといっしょ！夢のキャラクター大集合」「ふるさとの食 につぼんの食」などの会場設計・施工、展示制作等を担当した。また、ドームイベントの「バラとガーデニングショウ」「キルトフェスティバル」「テーブルウェア・フェスティバル」「世界らん展」、地域活性化イベント「地域伝統芸能全国大会in石川2013」「地方銀行フードセレクション」「日本を明るく元気にする“よい仕事おこし”フェア」「町イチ！村イチ！2014」、内閣府の「第2回野口英世アフリカ賞授賞式・記念晩餐会」、アジア最大級の旅の祭典「JATA旅博」、ソチ五輪の現地では「JOCジャパンハウス」などの企画、制作、設計・施工、運営業務を行った。

## 8. NHKメディアテクノロジー

テレビ、ラジオ、データ放送などの制作・送出版および高精細（4K・8K）・立体映像（4K3D、HD3D）を含めたロケ・中継業務を主とする「放送技術」と、番組の編成・送出や報道業務の支援管理、受信料の収納管理などの情報システムの設計・開発・運用を主とする「情報技術」を併せ持つ放送技術企業として公共放送を支えている。

13年度は、14年2月の「ソチオリンピック」放送の長時間に及ぶテレビ・ラジオ番組制作および送出などの技術支援とともに、インターネットやデータ放送へのコンテンツ展開にも対応し、NHKと視聴者との新たな結び付きの強化を担った。

また、7月の第23回参議院選挙、14年2月の東京都知事選挙においてはインターネット開票速報のシステム運用を担当。注目度の高い選挙報道に万全の態勢で臨み、無事完遂した。

さらに9月に放送が開始されたハイブリッドキャスト放送では、独立コンテンツとしてスクロールニュースを開発、運用するなどウェブ技術力を遺憾なく発揮し、次世代放送サービスの可能性を示した。

5月に次世代放送を推進するNext-TVフォーラムが設立されるなど、高精細コンテンツ制作の機運が高まる中、積極的に4K設備の導入を図り、『正月時代劇 桜ほうさら』や自然番組『ダーウィンが来た!』、『NHKスペシャル』「ミラクルボディ」、音楽ライブのマルチカメラ収録など、4Kの特徴を生かしたコンテンツ制作に取り組み、これまで培ってきた制作技術力を高精細映像分野でも発揮した。

9月にVTRテープ送出システムがデジタルサーバー送出システムに移行するのに合わせ、番組制作のファイルベース化を遅滞なく進め、テープからファイルベースへの大きな転換期における円滑な業務移行を支えた。併せて映像ファイルベースシステム、次期アーカイブスシステムの大規模開発を完了し、8月には本運用を開始した。

さらにMLBやサッカーなどBS1のスポーツ番組の基幹設備となるサーバーシステムの更新整備を受託。入念に準備を進め、BS1だけでなくGTVを含む全メディアのスポーツ番組を対象としたNHKスポーツサーバーとして14年3月から運用を開始した。

NHKグループの効率的な経営に資する事務系システム統合の開発に取り組み、10月には総務人事系の統合運用を開始。3月には株式会社経理系機能の開発を完了した。また、14年度の消費税率改定に伴う受信料額改定のシステム開発に計画的に取り組み、3月には万全の準備を整えた。

震災から3年が経ち、取り壊されることになった震災遺構など貴重な映像を3D映像として継続して撮影。「東日本大震災 津波の傷跡2011-2013」としてまとめ、復興支援事業として展示を行った。なお、この作品は国際3D協会より「ルミエール・ジャパン・アワード2013作品賞」を受賞した。

## 9. NHK出版

NHK出版は、NHKの放送番組テキストおよびNHKの放送に関連した書籍・雑誌、放送関連以外の書籍・雑誌等の出版・販売（電子版も含む）のほか、音楽著作権の管理等を主業務としている。

13年度放送テキストは『きょうの料理』などの家庭向けテキスト、『基礎英語』①②③や『テレビでハングル講座』などの語学系テキスト、『趣味Do楽 わたしと野菜のおいしい関係』や『100分de名著』などの趣味・教養系テキスト等、年間80点余のタイトルを発行した。また、すべてのテキストについてテキスト電子版の発行を開始し

た。新規テキストとしては、村上春樹の短編小説を英語で読み味わう『英語で読む村上春樹』、ニューヨークを舞台にした人気シリーズ『リトル・チャロ4』の英語系2誌を創刊した。

放送関連では、13年度は大河ドラマ関連として『大河ドラマ・ストーリー 八重の桜』の後編・完結編を発売。また14年『大河ドラマ～軍師官兵衛』については、ノベライズ（全4巻のうち前半の2巻）、『NHK大河ドラマ歴史ハンドブック 軍師官兵衛』『NHK大河ドラマ・ストーリー 軍師官兵衛』の前編を発売した。その他、『連続テレビ小説』「あまちゃん」のドラマ・ガイドのPart2、同じく『連続テレビ小説』「ごちそうさん」のノベライズ上・下巻およびドラマ・ガイドのPart1、2など、韓国ドラマ『馬医』のドラマ・ガイドをそれぞれ発売した。

放送関連以外では、NHK出版新書『流通大変動』、NHKブックス『ウェブ社会のゆくえ』などを発売。翻訳書では『スーパー・サッド・トゥルー・ラブ・ストーリー』『宇宙の扉をノックする』などを刊行した。実用書では、『別冊NHKきょうの料理 これぞ料理力アップ おかず大百科』などを刊行した。

また、電子書籍として『大河ドラマ』関連作品や翻訳書『ワープする宇宙』などのほか、電子アプリでは『語学プレーヤーアプリ』による音声コンテンツの配信を引き続き行った。

## 10. NHKビジネスクリエイト

NHKビジネスクリエイトは、NHKグループの放送支援、インフラ支援および事務支援を一元的に実施する総合サポート会社として、各分野の専門性を生かした事業活動を展開している。

13年度は、放送支援分野では、ソチオリンピック、参議院選挙、東京都知事選挙などの流動的な編成業務に的確に対応したほか、伊豆大島土砂崩れなどの災害や猪瀬前都知事の資金受領問題および上記の各選挙等においては確実な車両運行でNHK報道を支援した。

また、『大河ドラマ』や『連続テレビ小説』『紅白歌合戦』などの放送台本等の印刷を行った。

インフラ支援分野では、NHK放送センター、千代田放送会館、NHK放送技術研究所、NHK福岡放送会館などのセキュリティ確保、建物・設備等の管理および環境整備をはじめ、電気・空調・給排水などライフラインの安定供給を行うなど、公共放送NHKの事業基盤を支えている。また、NHK関連団体等が入居するビルの所有・管理を行

っており、安全で安心なオフィス・スペースを長期的に提供するため、13年度は数年にわたる計画的な耐震補強工事を完遂した。

事務支援分野では、NHKの調達・管財関連業務、NHK職員等の給与計算・採用事務関係業務のほか人材派遣事業を行っている。13年度は、新たに仙台に支社を開設し、NHKの地域放送局における事務業務の受託を拡充したほか、福岡・仙台両支社でもニュース生字幕制作業務を開始した。また、13年10月にはNHKグループを対象にした総務業務のシェアードサービスの運用を開始した。

13年度は、平成24～26年度中期経営計画『公共放送を支える創造企業へ』の2年目として、多様な事業展開と業務改革に取り組んだ。今後とも、NHKグループを取り巻く社会情勢の変化を的確に捉え、さまざまな分野で専門性を発揮し、公共放送NHKを支えていくこととしている。

## 11. NHKアイテック

放送・通信・情報分野での総合技術会社として、送信・受信・映像・建築関連技術をベースに、コンサルティングから設計・施工・保守まで一体とした事業を展開した。

13年度からNHK送信設備の保守業務を関東地域にも拡大して全国の送信設備を対象とするとともに、全国のNHK共同受信施設についても保守業務を受託し、全国送受信保守業務を全面的に担当している。定期保守から緊急出向まで、NHKグループ会社として、公共放送の「放送電波確保」に尽力した。

今後、ほぼ全国をカバーすることが予定されている携帯端末向けマルチメディア放送の基地局の建設をはじめ、ケーブルテレビ、民放等へ送出設備、伝送設備、法定同録装置等を整備した。

また、東京スカイツリーへの送信所移転に伴う受信対策を放送事業者と連携し完遂するとともに、衛星セーフティネット施策期限に向け、地上テレビ放送の新たな難視対策の取り組みを推進した。

## 12. NHK文化センター

NHK文化センターは、全国49教室（14年3月末現在）で、教養・趣味・暮らし・芸術・健康など6万7,000に及ぶ多彩な講座を展開している。会員は全国で約24万6,000人である。

13年度は「第27回国際交流祭in台北」を実施し、展示、実演、舞台公演などの参加者は163人、入場者は1万1,000人であった。

また、NHKからの受託業務で「デジタル放送活用術」を開催。紅白歌合戦やソチオリンピックをテーマに投票に参加したり、デジタルテレビでオリンピック競技の観戦を体験する内容で、合計23教室で270人が参加した。また、『NHKスペシャル』「世界初撮影！深海の超巨大イカ」、『プロフェッショナル 仕事の流儀』『シリーズ世界遺産100』『あさイチ』など番組関連の講座を開催（計18教室 963人）。NHK公開セミナーでは『大河ドラマ』『コズミック フロント』『にっぽん百名山』などの番組出演者らを講師に迎え、全国18会場で開催し総入場者数は5,116人であった。

## 13. NHK営業サービス

「NBS経営プラン24-26」に基づき、受信料収入の確保とNHK営業活動の効率的な業務展開を支援し、公共放送、放送メディアの発展に寄与する観点から、着実な遂行に努めた。13年度は、10年後の事業展開・事業運営のありようと方向性を取りまとめた「NBS経営ビジョン」を新たに策定した。受託業務については、NHK営業の事務情報処理の全面受託を定着させるとともに、14年4月実施の消費税改定に伴う受信料の料額改定の業務に的確に対応した。このほか、事業所・集合住宅や渋谷区などにおける受信契約取次および受信料収納や全国4か所のコールセンターにおける電話を中心とする視聴者対応、また、地域スタッフや法人委託訪問要員に対する講習や教育用映像資料の制作等の教育支援、営業活動に資するパンフレットなどの企画・編集・制作等の業務を実施した。営業拠点の再編成についてはNHKとの密接な連携のもと円滑な移行に努めた。

自主事業では、テレビ送信所のスカイツリーへの移転に伴う受信相談業務を実施したほか、NHKグループのソフト・コンテンツの販売受付やNHK主催イベントでの販売業務の支援に関する試行などに継続して取り組んだ。当社は膨大な個人情報適切に管理するため、業務プロセス・体制を不断に見直し、00年から7回連続して「プライバシーマーク」を取得している。

## II. 関連会社

### 1. 放送衛星システム

株式会社放送衛星システム（略称B-SAT）は、BS放送における基幹放送局提供事業者として放送衛星を調達・所有し、その管制、運用のほかア



アップリンク業務、全局EPG（電子番組表）のデータ配信業務を行い、BS放送の基本的なインフラ提供の役割を担う。

13年度は、放送衛星3機（BSAT-3a・3b・3c）により、日本に割り当てられているBS放送用の全周波数（12中継器）を使って、地デジ難視対策衛星放送（衛星セーフティネット）を含め39番組のBSデジタル放送を視聴者に継続して届けた。

一方、「B-SAT 中期事業計画」（12～14年度）の具体化として、非常災害時など衛星管制およびアップリンク業務を行うB-SATの拠点が万一、業務遂行不能の事態になった場合に、それを代行しBS放送を継続させる体制を構築、始動させた。それとともに、B-SATの拠点の施設・設備の強じん化にも取り組んだ。また、受信モニター局の整備を継続して進めたほか、B-SATが次世代BS放送を担うための活動や体制整備を行った。

03年7月から運用し設計寿命を超えた放送衛星BSAT-2cの軌道外投棄を、13年7月に終了した。

## 2. 総合ビジョン

アニメーションおよびアニメーション関連番組の企画・制作を行っている。

Eテレの長寿番組『忍たま乱太郎』をはじめ、BSP『キングダム』などのアニメ番組を制作し、番組のDVD化、キャラクター商品化、ミュージカル等催し物、海外販売、海外展開など、メディアミックス事業にも積極的に取り組んだ。特に『忍たま乱太郎』については、興行としてミュージカルも実施した。

13年7月1日をもって、NHKエンタープライズを存続会社とする吸収合併を行い、上記事業はNHKエンタープライズに引き継がれた。

## 3. NHK Cosmopedia America, Inc.

NHK Cosmopedia America はアメリカにおける番組制作と国際映像展開の拠点を目指している。制作の大きな柱は、NHK番組の制作とリサーチ、通訳、機材の手配などのコーディネート業務。MLB（メジャーリーグ野球）などのスポーツ中継業務も請け負っている。

国際映像展開では「TVジャパン」のチャンネル名でアメリカ、カナダ在住の日本人、日系人向けにNHK番組を中心とする24時間の有料配信事業を行っており、契約者数は8万を超え、400以上のホテルでも視聴可能。なお、1日平均5時間はノンスクランブルの「邦人向け国際放送」である。

## 4. NHK Cosmopedia (Europe) Limited

NHK Cosmopedia (Europe) の事業の大きな柱はNHKの制作能力、ノウハウを最大限生かした番組の制作およびリサーチ、通訳、機材の手配などのコーディネート業務と、「JSTV」のチャンネル名で欧州、北アフリカ、中東向けにNHK番組を中心に放送する24時間の有料配信事業である。

JSTV事業では、衛星やCATVを通じて60を超える国に放送を提供しており、契約数は7,100以上。同地域内の520以上のホテルでも視聴可能である。なお、1日平均5時間は「邦人向け国際放送」としてノンスクランブル放送となっている。

## 5. ビーエス・コンディショナル アクセス システムズ

略称は「B-CAS（ビーキャス）」。NHKBSデジタル放送の受信確認メッセージや有料放送の視聴、それにデジタル放送番組の著作権保護などに利用されているICカード（B-CASカード）の発行・管理を行っている。

13年度は、B-CASカードの不正改ざんに対処するため、技術的な対応を進めるとともにカード流通の適正化に努めた。13年度のカード発行枚数は1,534万枚、累計発行枚数は2億1,087万枚となった。

また、社会的インフラを担う企業として、引き続きコスト削減に努め、利用者負担の軽減を図った。

## Ⅲ. 関連公益法人等

### 1. NHKサービスセンター

公共放送の普及・浸透と視聴者サービスを担う財団として、視聴者とNHKとを結ぶさまざまな広報活動および視聴者サービス活動を推進した。

「NHKふれあいセンター」では、電話、メール、FAX等により視聴者からの要望・問い合わせが94万件寄せられたが、迅速・的確に対応した。

週刊番組情報誌『ステラ』や月刊誌『ラジオ深夜便』の発行、NHK広報番組の制作、語学講座番組の音声テキストCDの発行、各種の番組展示や催し物、印刷物などによって、NHK番組の広報普及活動を推進した。連続テレビ小説やソチオリンピックに関連して『ステラ』臨時増刊号を発

行。特に『あまちゃんメモリアルブック』は人気となり、発行部数は通常の臨時増刊号の倍となる10万部を超えた。また、『大河ドラマ』『連続テレビ小説』の舞台地やゆかりの地となった自治体や公共交通機関に対し、番組広報と地域振興との相互協力を働きかけ、広報印刷物の制作、ポスターの掲出、電車ラッピング等による番組周知活動を積極的に行った。語学講座の音声テキストCDの発行数は、12年度と比較して大きく減少。特に中国語、ハンダラ講座が顕著であった。また、CDコンテンツのインターネット配信、有料ダウンロード配信を行った。

「NHKスタジオパーク」「NHKホール」「NHKみんなの広場ふれあいホール」「NHK放送博物館」では来館者を対象としたイベントや多彩な視聴者サービスを実施した。NHKスタジオパークでは、『連続テレビ小説』『あまちゃん』人気を捉えた「じぇじぇじゅー!展」を3回開催し（通常は放送中1回）、多くの来場者を集めた。スタジオカフェでは、『大河ドラマ』や『連続テレビ小説』に関連した食事を企画。とりわけ“まめぶ汁”を素材にした「あまちゃんセット」メニューが評判となった。また、『あまちゃん』のオリジナルグッズ（各種Tシャツ等）を製作し、タイムリーに販売して好評であった。NHKホールでは、開館から40年を迎え、「ラジオ深夜便のつどい」の特別公開番組の実施やホールの内外の側壁に記念の装飾を施すなど、さまざまな記念事業を実施した。

このほか、自主事業として、美術展など催し物の実施、文化・教養などの音声・映像ソフトや番組記念品の制作・頒布、語学・音楽・落語・朗読の配信事業会社への提供など、多彩な事業を展開した。12年度に制作した鳥取県立博物館の3D映像ソフト「大地と海の物語 山陰海岸ジオパーク」は、13年11月、国際3D協会より「ルミエール・ジャパン・アワード2013作品賞」を受賞した。

社会奉仕業務については、13年度から、『ラジオ深夜便』の全国老人福祉施設への寄贈部数を2部から4部に増やしたほか、新たにNHKハートプロジェクトに関連して、「介護百人一首」の作品集を制作し、一般に無償で頒布する業務を社会奉仕業務に追加した。

## 2. NHKインターナショナル

外務省や国際交流基金など、公的資金による発展途上国の放送機関への番組提供や、支援業務を行っている。また、公共放送としての放送制作の

ノウハウと映像コンテンツを生かして、国際交流や海外放送機関への取材協力業務を行い、相互理解の促進を図っている。

13年度は、外国の放送機関に対して、主にJICAからの委託でさまざまな支援や研修を行った。独立して間もない南スーダンの民主化支援の一環として、「南スーダンTV・ラジオ組織能力強化プロジェクト」を開始した。南スーダンは12月以降、事実上の内戦状態となったため、プロジェクトを隣国ケニアでの研修に切り替えて継続した。一方、沖縄での3年間にわたる途上国を対象とした「メディア技術研修」は最終年を迎えた。また、総務省・外務省から委託を受けて、ミャンマーの国営放送局MRTVのプロデューサー・カメラマン・エンジニア等を東京に招へいし、スポーツ中継・番組制作や国際会議のオペレーション研修を実施した。

JICAからの委託を受けて、5月中旬から約1か月間、TICAD5（第5回アフリカ開発会議）の開催に合わせて、アフリカ6か国（ケニア、ナイジェリア、エチオピア、セネガル、カメルーン、コンゴ）からメディアクルー（計24人）を招へいし、日本を紹介する番組の制作とTICAD5関連のニュース制作の支援を行った。このTICAD5関連のニュースは、IPを使って本国に送られ、放送された。さらに、期間中行われたJICAの国際シンポジウムを収録し、Eテレ、NHKワールドで放送した。

海外放送機関への番組の提供については、外務省の文化無償協力と国際交流基金の事業で、9か国9機関に1,905本の番組を提供した。

また、アニメなど日本や世界のメディア文化を紹介する2つの事業を文化庁から受託した。このうち「海外メディア芸術祭等参加事業」では、展示・上映・イベントをオーストリアなど20か所のフェスティバルで実施した。また、「国内巡回事業」ではNHKのハートプラザを含め17の地域を巡回し、メディア芸術祭のPRを行った。

中国関連事業では、ジャパン・コンテンツ海外展開事務局（J-LOP）の補助金を受け、財団のライブラリーの中から防災や環境問題に関連した番組の中国語版を制作し、中国で放送した。

一方で、世界の中での日本理解を促進するため、海外に提供する番組の国際版番組ライブラリーの自主制作を進めた。13年度は、NHK番組の国際版136本（英語21本と仏語47本、スペイン語48本、アラビア語20本）および独自企画番組5本、計141本を制作した。

外国放送機関に対する取材協力は、46の国と地域、50放送機関で513件の中継・伝送業務を行った。

国際コンクール参加番組としては、44本を制作、海外交流用英語版は30本を制作した。NHKワールド用にも定時番組『March to Recovery』『サラメシ』など52本の英語版を制作した。また、『連続テレビ小説』『カーネーション』151話のうち、前半79話のスペイン語版を制作した。

海外の視聴者からNHKワールドに寄せられる意見や要望、また、海外の委嘱モニターから送られてくるモニター報告を整理し報告した。

海外からNHKへの訪問者の接遇件数は119件で、84の国と地域および、国際機関から、要人を含めて1,419人がNHKを訪問した。訪問者は12年度に比べ300人程増加した。

「第40回日本賞」「教育コンテンツ世界作者会議（IPCEM）」「ABUレジスタ・ティーンズ」「アジア教育プロデューサー会議」の運営等を実施した。「日本賞」には331本のエントリーがあった。

### 3. NHKエンジニアリングシステム

NHKの技術開発成果を広く提供する技術協力や、保有特許の利用促進、新技術の実用化開発、放送の受信環境維持改善に関わる調査業務などを実施した。

13年度は、新たな難視解消に向けた地上デジタル放送受信技術調査、課題地区世帯の受信状況調査、および地上デジタル放送送信設備の東京スカイツリー移行に伴う調査を実施した。

スーパーハイビジョン普及促進では、NAB 2013、IBC2013、CEATEC2013、全国NHK放送会館等での展示のほか、紅白歌合戦、ソチオリンピックのパブリックビューイングの技術運営を実施した。さらに、開発した8K小型カメラを使用したSHVコンテンツ制作のほか、医療分野への応用を推進し、東京ハートラボ、日本循環器学会学術集会において遠隔医療や手術映像アーカイブスなどの可能性を示した。

また、話速変換・抑揚変換技術による語学学習アプリの開発、美術館・博物館などの映像・音声設備の整備・保守、超高層ビルによるテレビ受信障害予測、技術セミナーや標準画像の頒布などによる新技術の普及、技術者育成に努めた。

### 4. NHK放送研修センター

NHK職員に対する研修は、プロフェッショナルとしてのコンプライアンスを備えた、信頼できる公共放送の担い手の育成を目的とし、入局から

3～4年を「人材育成重点期間」として実施する基礎研修のほか、コンプライアンスの推進、職員倫理・公金意識の徹底、管理職・デスク層のマネジメント力の強化、各職員層に合わせた能力開発や意識改革を押し進める研修などを実施した（102研修166回、受講者数4,762人）。

このほか、eラーニングにより「コンプライアンスの原点と向き合う」など11コースを実施した（受講者数1万3,695人）。

民間放送局、海外放送局、ケーブルテレビ局、制作プロダクションに対しては、番組制作のノウハウ、放送技術の基礎や最新技術の知識・技能習得を図る研修を実施した。

民放連関連で、放送倫理をテーマとする「放送人基礎研修」や若手技術者を対象とした「テレビ技術研修会」を実施したほか、ケーブルテレビ局を対象に「番組制作コース」と「伝送技術コース」を設け、新入社員や初心者を対象とした専門研修を実施した。

海外の放送局に対して、国際協力機構（JICA）からの委託による放送技術や番組制作の研修を実施した。

また、次世代の放送人育成につなげるための事業として「大学生セミナー」を実施するとともに、報道記者志望の学生を対象としたインターンシップを開催した。

ことばコミュニケーション事業では、「日本語センタースクール」「話しことば通信添削講座」「朗読事業」「先生のためのことばセミナー」「ビジネス界を対象にしたセミナー」「放送支援のためのセミナー」を実施した。教育現場を対象としたことばコミュニケーション事業では、大学・専門学校・小中高校で29の講座を実施した。一方、ことばコミュニケーションのノウハウを社会に還元する企業・団体研修は、71の企業・団体からの要請に応えた。

そのほか、放送番組のアナウンス等業務では、ラジオ番組『ことば力アップ』のテキストを執筆し番組にも出演したほか、放送のバリアフリー化を目指すNHKの生対応の字幕放送や、解説放送の拡充に協力した。

### 5. 日本放送協会学園

NHKの教育番組を利用して通信による高等学校教育を行い、放送の利用促進に寄与しているほか、NHK教育番組の充実改善に協力している。

また、生涯学習通信講座や介護福祉士、社会福祉士の国家試験受験資格取得のための通信教育を

行っている。

〔通信制高等学校〕

NHKの放送を利用して学ぶ広域通信制高校で、本校のほか、全国34の協力校等でスクーリングを実施。08年度から単位制の教育課程に変更、また、11年度からは海外在住の生徒向けに、海外eコースを新設した。

生徒総数3,768人、卒業生1,192人。これまでの卒業生総数は7万5,131人となった。

〔通信制福祉教育〕

専攻科社会福祉コース、実務者研修コースの学生総数759人、修了生465人。修了生総数は3万4,543人。国家試験の合格率は全国平均64.6%に対し76.4%。別科として介護職員初任者研修も行っている。

社会福祉士養成課程は、社会福祉士国家試験受験資格を2年間で取得する一般養成科に加え、1年間で取得する短期養成科を12年4月開設。学生総数574人、修了生243人、修了生総数2,705人。国家試験合格率は全国平均27.5%に対し48.9%。

〔生涯学習通信講座〕

俳句、短歌、書道、美術、写真、語学、実用講座など210講座・コースで、国内外で年間約9万5,500人が受講した（対面型オープンスクールを含む）。これまでの受講者総数は、延べ549万1,500人に達した。NHK共催の全国短歌大会では近藤芳美賞を創設し、生涯学習美術展は東京都美術館に移設した。西宮オープンスクールは14年3月末に閉校。

## 6. NHK交響楽団

オーケストラ演奏により、音楽芸術の向上発展を図り、その社会的文化的使命を達することを目的とした公益財団法人である。13年度は、名誉指揮者プロムシュテットによるブラームスの交響曲全曲やサンティ、デュトワ、ルイーザらの指揮によるオペラなどの大がかりでチャレンジングなプログラムを定期公演で開催した。また、8月には日本の常設オーケストラとしては初めての出演となったザルツブルク音楽祭を含むヨーロッパ公演を3か国、4都市で実施した。

13年度は定期54回、特別9回、地方10回、契約37回、海外4回の公演を実施した。

これらの公演のほか、13年度は社会貢献プロジェクトを中心に、積極的にアウトリーチ活動を展開した。N響メンバーが小・中学校を訪問する「NHK子ども音楽クラブ」をNHKと共催で9か所で開催、病院のロビー等で室内楽を演奏する

「病院コンサート」を5か所で開催、また、N響練習所が所在する港区内の地域貢献を目的として小学校（2校）と保育園（1所）で室内楽を実施した。

放送面では、N響の全定期公演がFMで生放送されたほか、録画放送がEテレ『クラシック音楽館』で放送された。また、『大河ドラマ』「軍師官兵衛」テーマ曲や『名曲アルバム』、東日本大震災「花は咲く」プロジェクトの収録を行った。

このほか、N響の前身である「新交響楽団」創設以来の演奏記録を改めて調査・編さんし、14年3月からホームページ上で一般公開を始めた。

## 7. NHK厚生文化事業団

福祉ニーズは時代とともに変化し多様化している。NHK厚生文化事業団はその要望に応えるため、放送と連携しながら障害者福祉、高齢者福祉などの事業を実施している。

13年度は東日本大震災の被災地支援に引き続き取り組んだ。地域福祉を支援する「わかば基金」の「東日本大震災被災地支援金部門」で被災地の14の福祉グループの地道な活動を支援した。

また、大震災における障害者の施設や高齢者の多い地域の体験を検証する「震災フォーラム」を開き、いざというときのために何を学ぶべきかを伝えた。

このほか、事業団の主な事業は次のとおり。

- 子どもの発達相談会を16回実施したほか、障害のある子どもを対象にした療育キャンプを行った。
- 障害のある人が小学校を訪れ、自らの生き方について語る「交流教室」を新たに始めるなど、障害者や福祉への理解を促すイベントを行った。
- 障害や精神疾患に関する最新情報と支援の在り方を伝える「NHKハートフォーラム」を全国の各放送局とともに開催した。
- 「認知症フォーラム」を全国で実施し、地域放送で放送された。
- 高齢者の健康と生きがいをテーマに『ハートネットTV 公開すこやか長寿』の公開収録と講演会のイベントを各地で行った。
- 高齢社会の生き方を描く「NHK銀の雫文芸賞2013」や、障害者の体験や福祉の実践を記録する「第48回NHK障害福祉賞」を実施し、その内容を出版するとともにテレビやラジオで放送した。
- 福祉番組や事業団制作の福祉DVD教材を貸し出す「福祉ライブラリー」は、うつ病や認知症ケアなどの利用が多く貸出数が大きく増加した。

○チャリティーイベント「第47回NHK福祉大相撲」を行い福祉施設に福祉車両を、「歌謡チャリティーコンサート」で障害者や高齢者の施設・団体に介護浴槽や障害者スポーツ用具を贈呈した。  
○地域福祉を支援する第25回「わかば基金」で、全国46の福祉グループに、活動を広げるための支援金やリサイクルパソコンを贈った。

## 8. 日本放送協会健康保険組合

健康保険法に基づき、被保険者と被扶養者に対して、保険給付および保健事業等を行っている。

13年度は、保健事業として各種検診や予防接種の経費補助、メンタルヘルスへの対応など、疾病予防や健康の保持・増進に資する施策を実施した。

また、特定健康診査・特定保健指導においては、特定健康診査の受診率向上や特定保健指導の利用促進に努め、メタボリックシンドロームの予防および改善に取り組んだ。

## 9. 日本放送協会共済会

NHK役職員とその家族などの生活向上と、退職者とその遺家族の救済、援護等を行うために、食堂の運営、物品販売、生涯生活設計相談、各種給付・貸付、各種保険の団体扱い、および転勤者用住宅の管理・運営等の福利増進施策を行った。